

評価者	市民生活部長	齋藤 和徳
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	勤労者福祉	施策の方針	技能振興の充実
目標とすべきまちの姿	技能者がもつ専門的な技能により市民生活がより豊かになっています。その専門性を生かした市内事業者が、日常生活における市民のニーズにこたえることで、市民生活の向上に貢献しています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	33.3%	平成30年度(2018年度)	35.2%	平成29年度(2017年度)	34.8%
	平成28年度(2016年度)	32.7%	平成27年度(2015年度)	32.0%		

(2) 妥当性

令和元年度(2019年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.8%	0.5%	0.2%
ちょうどよい	0.8%	43.2%	1.4%
効果不十分	1.8%	2.7%	9.3%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成30年度(2018年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.8%	0.3%	0.2%
ちょうどよい	1.2%	41.3%	1.5%
効果不十分	2.8%	1.8%	10.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成29年度(2017年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	0.7%	0.2%
ちょうどよい	0.7%	41.5%	1.4%
効果不十分	1.8%	1.8%	11.6%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成28年度(2016年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.4%	0.7%	0.2%
ちょうどよい	0.5%	43.3%	1.8%
効果不十分	1.2%	1.8%	11.5%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

平成27年度(2015年度)

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.6%	0.4%	0.3%
ちょうどよい	1.1%	41.3%	1.9%
効果不十分	2.1%	3.1%	10.7%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	14.6%	41.0%	4.6%	39.8%
平成30年度(2018年度)	15.2%	40.2%	5.1%	39.5%
平成29年度(2017年度)	17.8%	40.2%	3.0%	39.0%
平成28年度(2016年度)	16.9%	41.9%	3.7%	37.5%
平成27年度(2015年度)	17.5%	40.8%	3.9%	37.9%

2 内部評価

(1) 令和元年度(2019年度)の目標

- ①優秀な技能者を顕彰し技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上に努めるため、技能者表彰を実施する。(市民-21)
- ②広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出するため、技能職団体連絡協議会と連携して技能祭を実施する。(市民-21)
- ③③広く市民に技能体験の機会を設けるとともに後進の育成のため、技能職団体連絡協議会と連携して、小中学校で技能の実演、技能体験の機会を設ける。(市民-21)

(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性

- ①技能者表彰を行うことで、鎌倉市における技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上が図られるとともに、技能の習得と向上がより豊かな市民生活の向上に貢献している。(市民-21)
- ②③「技能祭」や「小中学校での技能の実演、技能体験」は、技能の周知や技能職の後継につながり、専門性を持つ事業者が市民生活の向上に貢献する機会の増加につながる。(市民-21)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)	令和元年度(2019年度)	平成30年度(2018年度)		事業内容	予算規模
市民-21	技能振興事業	337	368	0.8	0.8	無	b	B

(4) 主な実施内容

- 【主な実施内容】**
- ①優秀な技能者を顕彰し技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上に努めるため、技能者表彰を実施し、3名の技能功労者、10名の優秀技能者、1名の青年優秀技能者を表彰した。(市民-21)
- ②広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出するため、技能職団体連絡協議会と連携して技能祭を実施した。(市民-21)
- 【実施できなかった事業とその理由等】**
- ③技能の周知のため、技能職団体連絡協議会と連携して、小・中学校で技能の実演、技能体験の機会を計画したが、天候及び新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施することができなかった。(市民-21)

(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切 □ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切 □ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切 □ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切 □ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>		
<p>技能者表彰を行うことで、鎌倉市における技能者の経済的社会的地位及び技術水準の向上に寄与することができた。(市民-21)</p> <p>また、技能祭を開催することで、広く市民に技能者の技術に触れる機会を創出し、技能の周知や技能職の後継、専門性を持つ事業者が市民生活の向上に貢献する機会の増加につなげることができた。(市民-21)</p>		

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	市民-21	事業名	技能振興事業						
指標の内容	技能者表彰受賞者数				単位	人	指標の傾向	↘	備考
当該指標を設定した理由		年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
優秀な技能者の増加は市民生活の向上に寄与するため。		目標値	32	32	32	32	32	32	
		実績値	22	16	16	20	18	14	
		達成率	68.8%	50.0%	50.0%	62.5%	56.3%	43.8%	